

令和 5 年 5 月 29 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2022

課題番号：19K00493

研究課題名（和文）ボヘミア文学史の記述に関する研究

研究課題名（英文）Studies on Literary History in Bohemia

研究代表者

阿部 賢一（ABE, Kenichi）

東京大学・大学院人文社会系研究科（文学部）・准教授

研究者番号：90376814

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：ボヘミア文学史の記述に関する本研究は、ドイツ文学とチェコ文学それぞれの潮流の影響を受けた独自の文学史的な系譜があることを理論家フェリクス・ヴォジチチカの例を通して明らかにした。また、文学史上の重要な分岐点として、19世紀のヨゼフ・ユングマン、20世紀初頭のパヴェル・アイスネル、そして20世紀後半のミラン・クンデラを主題として分析を行い、最終的な成果は単著として発表予定である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の主たる動機は、同一地域における複数言語の文学史の系譜を検討するものであった。具体例として、ボヘミアにおけるチェコ語文学、ドイツ語文学を検討し、その際、翻訳の営為がきわめて重要であり、当該文学の受容にも大きな影響を及ぼしていることが確認できた。複数言語にまたがる横断的なアプローチは、個別文学の研究が主流の現状に一石を投じるものであり、国内外での発表を通してその意義の一部は主張することができた。また複数言語の文学記述の問題は、中欧に限らず、日本などその他の地域の文学史研究、翻訳研究にも考察の機会を与えるものであり、今後、さらなる相互的な検討が求められる。

研究成果の概要（英文）：This study on the description of literary history in Bohemia reveals through the example of the theorist Felix Vodicka that there is a unique literary-historical genealogy influenced by the respective currents of German and Czech literature. I also analyzed the works Josef Jungmann, Pavel Eisner and Milan Kundera from the point of translation studies, the final results are to be published as a monograph.

研究分野：中欧文学

キーワード：チェコ文学 文学史 翻訳研究 ユダヤ

1. 研究開始当初の背景

研究を開始した2019年以前の段階では、ボヘミアにおける文学史研究は、明らかにチェコ文学史とドイツ文学史と断絶した状態にあり、政治的な対立もあり、両者を同レベルで論じることは皆無であった。また複数言語にまたがる研究は、リルケ、クンデラなど個別の作家のレベルではいくつか存在したが、それらの現象を文学史として捉える視点は欠落していた。

研究開始の年に、越境的文学史の記述に関する論考 (Ladislav Fůttera, Václav Petrbok, Václav Smyčka, Matouš Turek (ed.) “Jak psát transkulturní literární dějiny?” Praha: Akropolis 2019) が刊行され、まさに中欧の研究動向と連動する形で、研究を開始することができた。

2. 研究の目的

本研究は、このような状況を踏まえ、ボヘミアにおける複数言語による文学営為を文学史の観点から、そしてさらにはその中核をなす翻訳者に注目を着目し、研究を進めることを目的とした。その際、翻訳研究が一つの重要な視点となるが、従来は日本語、英語などいわゆるメジャーな言語が対象になることが多いが、チェコ語という近代化が遅かった言語の事例を考察することで翻訳研究の潮流に一石を投じることを目的とする。

3. 研究の方法

研究に当たっては、まず20世紀文学史の中核を担うフェリクス・ヴォジチチカの理論を徹底的に検討し、チェコ文学の伝統に加え、ヨーゼフ・ナードラーの文学史を反証的に用いていることを明らかにした。その後、文学史における三つの分岐点として、19世紀のヨゼフ・ユングマン、20世紀前半のパヴェル・アイスネル、同後半のミラン・クンデラの事例を設定し、チェコ語、ドイツ語、フランス語で執筆、翻訳された文献の分析を行った。ユングマンは民族復興の時代にチェコ語のインフラ整備を行った人物として知られるが、その際、様々な用例集、辞書の編纂だけでなく、英語、フランス語、ドイツ語などから翻訳を行い、文学表現の可能性を翻訳を通して探求した。カフカと同世代のアイスネルは同化ユダヤ人という立場から、対立が激しくなる状況下、チェコ語とドイツ語両方の翻訳を行い、「共生」という彼が掲げる理念の実現を試みた。社会主義体制下で活動を行うクンデラにとって、西側の言語への翻訳は、単なる文学作品の受容ということだけではなく、当該文化圏のフィルターとの葛藤という別の問題にも直面していた。それゆえ、「誘拐された西欧」といった評論も記し、ヨーロッパ文学における自身の作品の位置づけを試みる。

このような事例を通すことで、時代的な文脈においてそれぞれ翻訳が担っている機能は何か、検討することが主たる目的となり、その際、方法的に重要視したのは、パラテキストの分析である。異なる言語の読者に対して文学作品の翻訳を行う際、本文の翻訳以前に、序文、解説、訳注などのパラテキストは読解の方向性を誘導するものとして重要な役割をになっているからである。

研究にあたっては、短期滞在の他、2022年には3か月、プラハに滞在し、アクセスが困難な資料収集を行った他、同年6月のチェコ文学世界会議でも報告を行い、現地の研究者とも交流を深めた。

4. 研究成果

起点となる文学史的な考察は、「ボヘミアにおける文学史の系譜 フェリクス・ヴォジチチカの「文学史」論をめぐって」(井上暁子編『東欧文学の多言語的トポス』水声社、2020年)として発表された。三つの分岐点にかんしては、「ミラン・クンデラ『存在の耐えられない軽さ』重さと軽さの反転」(小川公代・吉村和明編『文学とアダプテーション II ヨーロッパの古典を読む』春風社、2021年)、「文芸翻訳とパラテキスト」(『未来哲学』第5号、2023年)などで活字化された。最終的な論考は、単著として刊行予定である。

また研究の成果の一部として、自身の論文、著書等を生み出しただけでなく、公開講演会も

開催した。2020年1月には、ヤクブ・チェシュカ准教授を招聘し、東京大学他にて、ミラン・クンデラ、ボフミル・フラバルに関する講演会を実施し、社会主義体制下における検閲の問題や位相について最新の知見を提供する機会を設けた。

並行して、戯曲家ヴァーツラフ・ハヴェルの著作の翻訳を行った他、ハヴェルの文学的営為について、NHKのテレビ番組「100分de名著」にて解説し、公共の電波を通して、チェコの文学状況についての知見を共有する機会を得た。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 阿部賢一	4. 巻 12
2. 論文標題 カレル・チャペック『ロボット』におけるロボットの言語	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 れにくさ	6. 最初と最後の頁 206-221
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 阿部賢一	4. 巻 10-1
2. 論文標題 ヴァーツラフ・ハヴェルの戯曲『再開発』と全体主義	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 れにくさ	6. 最初と最後の頁 42-59
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿部賢一	4. 巻 5
2. 論文標題 文芸翻訳とパラテキスト	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 未来哲学	6. 最初と最後の頁 122-135
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 2件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 阿部賢一
2. 発表標題 ミラン・クンデラと翻訳
3. 学会等名 日本スラヴ学研究会・日本ロシア文学会合同シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 阿部賢一
2. 発表標題 わが祖国はいずこに チェコにおけるロマ作家の作品から
3. 学会等名 ワタン研究プロジェクト ワークショップ 「《ロマ》から《ワタン (Home/land)》を考える」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 阿部賢一
2. 発表標題 ヨゼフ・ユングマンの翻訳『アタラ』の社会的機能について
3. 学会等名 日本スラヴ学研究会研究発表会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 阿部賢一
2. 発表標題 翻訳における時差 「世界文学」と「時間」
3. 学会等名 グローバル・ヒストリーと世界文学（招待講演）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 小川公代、吉村和明、沼野充義、森田直子、新井潤美、秦邦生、伊達聖伸、阿部賢一、他	4. 発行年 2021年
2. 出版社 春風社	5. 総ページ数 500
3. 書名 文学とアダプテーションII ヨーロッパの古典を読む	

1. 著者名 野崎 歓、阿部 公彦、塚本昌則、阿部賢一、柳原孝敦、斎藤真理子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 放送大学教育振興会	5. 総ページ数 284
3. 書名 世界文学への招待〔新訂〕	

1. 著者名 井上暁子・三谷研爾・阿部賢一・藤田恭子・越野剛	4. 発行年 2020年
2. 出版社 水声社	5. 総ページ数 256
3. 書名 東欧文学の多言語的トボス	

1. 著者名 坪井秀人・瀧井一博・白石恵理・小田龍哉編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 226
3. 書名 越境する歴史学と世界文学	

1. 著者名 阿部賢一	4. 発行年 2020年
2. 出版社 NHK出版	5. 総ページ数 117
3. 書名 ヴァーツラフ・ハヴェル『力なき者たちの力』 NHKテキスト 100分de名著	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------